

勝瑞時代

- 細川・三好氏と阿波 -

会 期 2001.10.20 (土) 11.25 (日) 月曜休館

開館時間 9:30 ~ 17:00

会 場 徳島県立博物館企画展示室

観 覧 料 無 料

ごあいさつ

南北朝～戦国時代の阿波国守護細川氏は、足利將軍家の一門であり、管領細川家を本宗家とする有力氏族でした。また、そのもとで成長した三好氏は幕府の実権を握るほどの勢力を持ちました。

細川氏は、支配のセンターである守護所を、15世紀頃から現在の藍住町勝瑞に置き、また、三好氏も同所を拠点としました。そして勝瑞は、土佐の長宗我部氏が阿波を制圧するまで、阿波の政治・経済・文化の中心として栄えました。

近年、発掘調査が進み、守護町勝瑞遺跡の実相が浮かび上がってきました。その価値は高く評価され、勝瑞城跡と、三好氏の居館跡と見られる勝瑞館跡が、併せて「勝瑞城館跡」として国史跡に指定されました。

この展示では、勝瑞の発掘調査成果を中心に、考古資料や文献史料等によって、細川・三好氏の時代を概観してみたいと思います。史跡勝瑞城館跡の歴史的意義をご理解いただく一助となることを願っています。

なお、この特別陳列は、徳島市立徳島城博物館で開催されている特別展「勝瑞時代 - 三好長慶 天下を制す - 」と相互に関連するものでもあります。あわせてご覧いただければ幸いです。

最後になりますが、開催に当たり、格別のご配慮をいただいた関係各位に心からお礼申し上げます。

2001年10月20日

徳島県教育委員会
藍住町教育委員会

勝瑞城館跡は2001年1月国史跡に指定された。これを記念して開催する本展示は、徳島県教育委員会文化財課、藍住町教育委員会、徳島市立徳島城博物館、徳島県立博物館の4者による協議を行って準備を進めてきたものである。

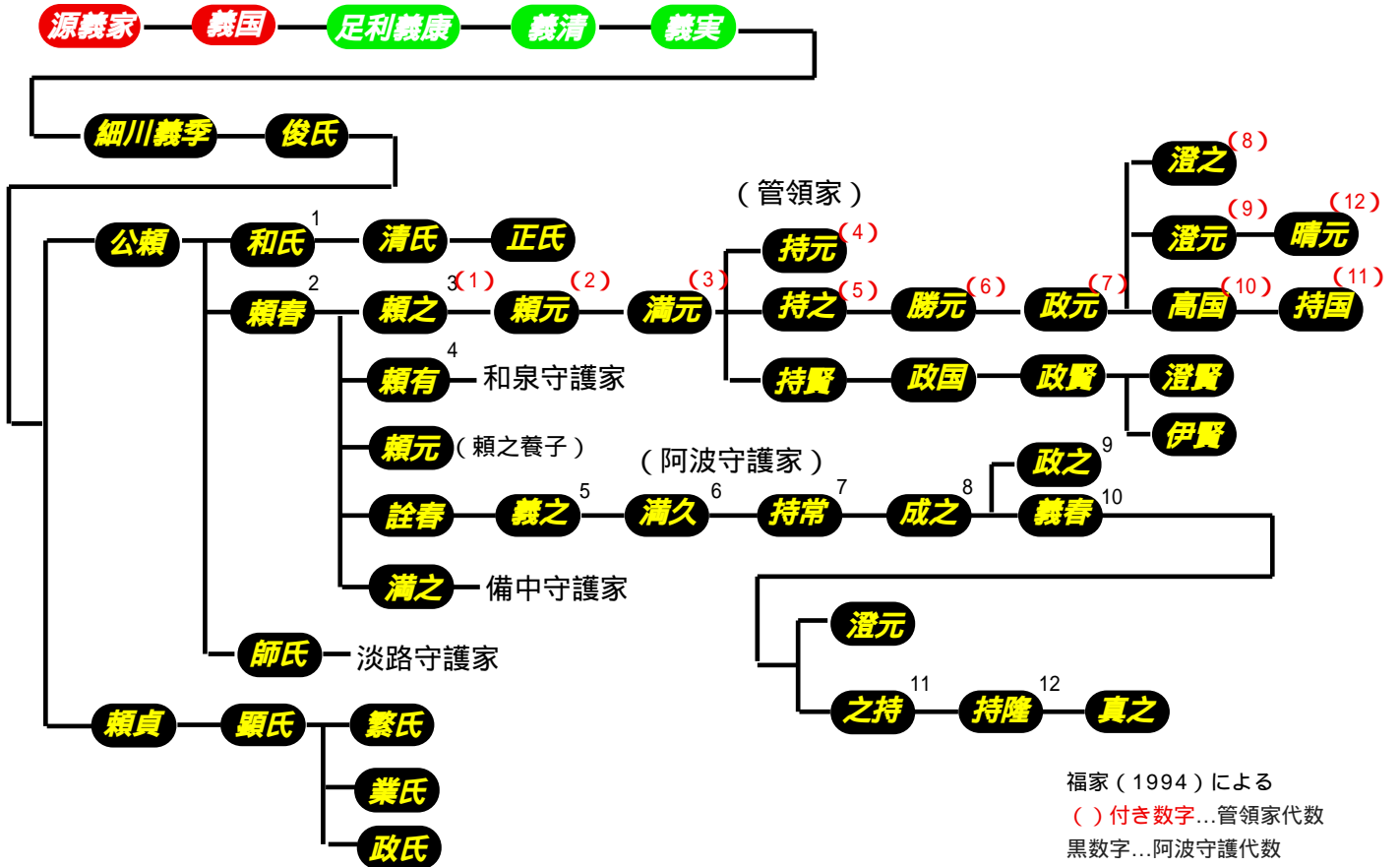
徳島城博物館特別展「勝瑞時代 - 三好長慶天下を制す - 」との違い

- ・徳島県立博物館展示内容...細川氏の入国から三好氏の滅亡に至るまでの阿波の情勢の中で、勝瑞城館跡の歴史的な位置づけを紹介する。
- ・徳島城博物館展示内容...畿内で活動した三好氏の動向や、茶の湯、連歌などの教養に長けた三好氏の文人的側面を紹介する。

関係略年表

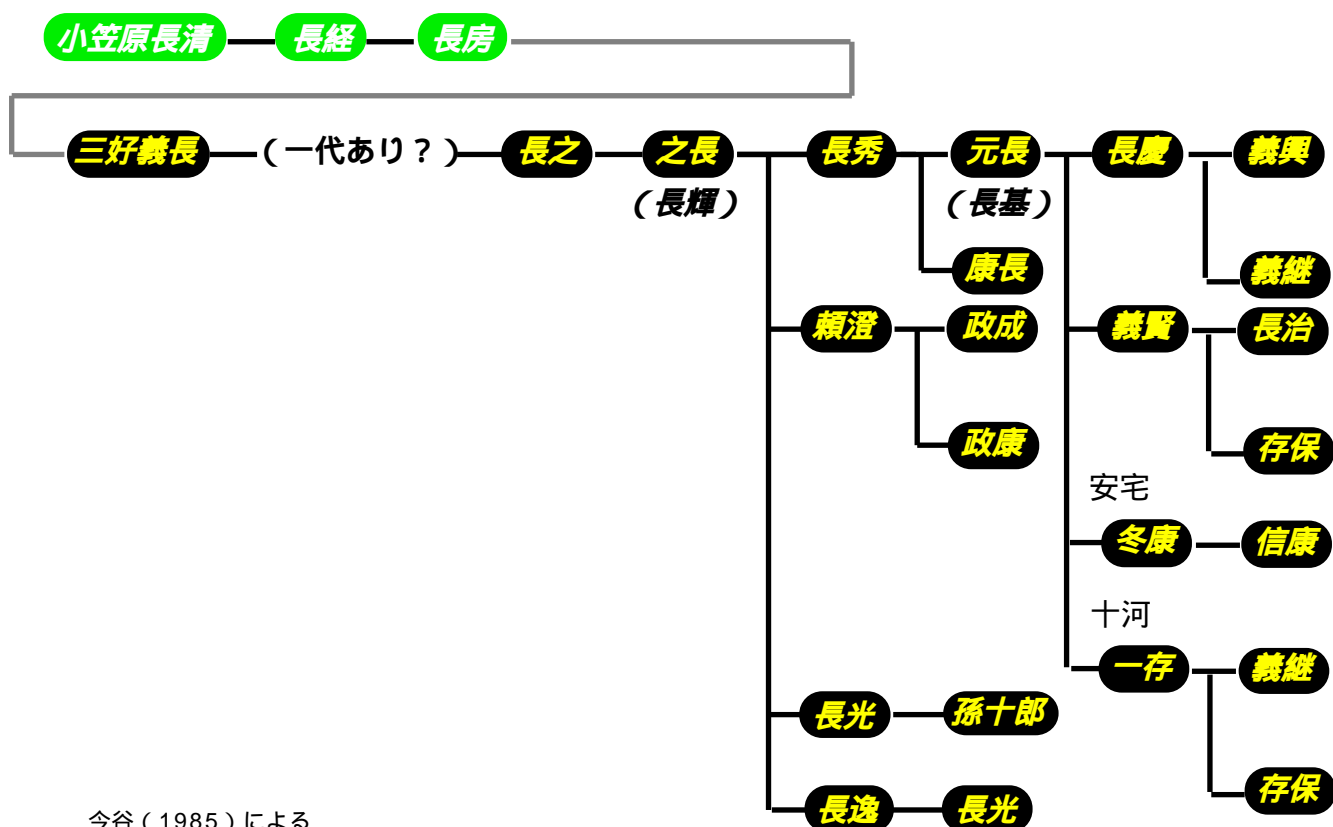
1336 (建武 三)	細川氏、阿波入部
1400年代	この頃細川氏、守護所を秋月から勝瑞へ移す
1485 (文明一七)	三好之長、京都で徳政一揆の張本となる
1506 (永正 三)	之長、細川澄元の先陣として上洛 (この頃から、約50年間「両細川の乱」が断続的に続く)
1552 (天文二一)	三好義賢、主君細川持隆を謀殺し、阿波の実権を握る
1553 (天文二二)	三好長慶の京都支配始まる
1562 (永禄 五)	義賢、和泉久米田の戦いで敗死
1564 (永禄 七)	長慶、病死
1582 (天正一〇)	勝瑞落城

細川氏略系図



福家 (1994) による
 () 付き数字...管領家代数
 黒数字...阿波守護代数

三好氏略系図



今谷 (1985) による

勝瑞前夜

細川氏は足利氏一門の氏族で、もとは三河国（愛知県）の領主である。南北朝内乱最中の建武3年（1336）、後醍醐天皇に反旗を翻した足利尊氏は、九州に敗走する途中、播磨室津の軍議で中国・四国の諸將の配置を決めた。その際、四国には細川氏を配し、これを受けて和氏・頼春兄弟が阿波に入った。

細川氏は「山岳武士」といわれる山間部の南朝系勢力の抵抗を受けたといわれているが、実際にはそれほどの脅威ではなく、短期間のうちに在地武士を糾合していった。足利氏が幕府を開いてからは、守護として阿波を支配した。

その拠点、秋月城（土成町秋月）であったといわれるが、位置等は未確定である。これまで、的場・馬場屋敷と呼ばれる南北270m、東西70mの台地状の区域とする説と、馬場屋敷の東側にある御屋敷と呼ばれる付近を城跡とする説があり、前者が有力視されてきた。土成町教育委員会による的場地区の発掘調査では、守護所の痕跡は確認されておらず、再検討が必要である。城域東方には、細川氏が建立した阿波安国寺（補陀寺）、宝冠寺などがあったといわれる。安国寺経蔵跡とされる輪蔵庵本堂下から瓦などが出土したほか、近くの明月中世墓群出土の丹波焼蔵骨器が伝わっている。

一方、支配の転変のもとにあった民衆の世界はどうであったろうか。中世阿波における民衆生活の様子を物語るものに、徳島市中島田遺跡からの出土品がある。この遺跡は鎌倉時代後半から南北朝時代の集落跡で、鮎喰川下流に位置する。日常生活に用いられ

たさまざまな道具類が出土している。県内では他に例を見ない呪符木簡(まじない札)も特徴的で、当時の信仰生活の一面がうかがえる。大半を占める土器・陶磁器には、現在の愛知県、大阪府、兵庫県、岡山県で生産されたものや、中国産のものがある。中世には全国的に流通ネットワークが発達したが、水運を媒介として阿波の人々のくらしもそのなかに組み込まれていたのである。

やがて細川氏が勝瑞に守護所を置いた背景にも、河川水運や流通における利便性も考慮されたものと思われる。

勝瑞時代

細川氏は、15世紀には守護所を現在の藍住町勝瑞に置いた。史料上、勝瑞に居住したことがわかるのは成之が最初だが、三河国守護を兼ねた前代の持常による可能性もある。以後、勝瑞は阿波の政治、経済、文化のセンターとして栄えたと考えられる。その後、16世紀初頭から長期間続いた管領細川氏の家督相続争い(両細川の乱)に巻き込まれ、阿波守護細川氏は弱体化していく。代わって被官である三好氏が勢力を伸ばした。之長(長輝)は文明17年(1485)京都で発生した土一揆の張本として登場。永正3年(1506)細川澄元(細川成之の孫。管領細川政元の養子)の後見人として京都に入り、三好氏の畿内進出の端緒を開いた。また、元長(長基)は大永7年(1527)



阿波に滞在していた足利義維を擁して、主君である細川晴元らとともに堺に上陸し、事実上の幕府をつくった。続く長慶のときには四国や畿内周辺に勢力を持ち、幕府の実権も掌握した。弟の義賢は守護細川持隆を自害に追い込み、事実上の阿波の国主となった。その拠点はその都市として発展した勝瑞であった。

勝瑞の景観や生活については、近世初期の軍記等によって知られるのみで、詳しいことはわかっていなかった。近年、藍住町教育委員会と徳島県教育委員会が行ってきた発掘調査により、勝瑞城跡や正貴寺跡、勝瑞館跡などの実態が明らかになった。とくに重要なのは、勝瑞城跡の南西約150m地点からの「勝瑞館跡」の発見である。東西120m、南北150mの規模があり、周囲は幅約12mの濠に囲まれている。館内には枯山水式の庭園や宴会・接待に用いる会所の跡、館の主の日常生活の場である常御殿の跡が見つまっている。京都の將軍邸や細川管領邸を模して16世紀半ばに造営され、三好義賢以降、土佐の長宗我部氏の侵攻を受けるまで三好氏の居館として用いられたと推定される。なお、細川氏の守護所跡はまだ確認されていない。

勝瑞落日

中世阿波の「首都」としての勝瑞の歴史は、土佐から侵攻した長宗我部元親の軍勢によって終止符を打たれる。長宗我部軍は、天正3年（1575）に海部城を落とし、天正5年（1577）には三好長治自害の報を受けて現在の池田町にあった白地城を攻めた。以後、元親はここを阿波・讃岐攻略の拠点とした。勝瑞に拠点をおく三好氏は、讃岐の十河存保（義賢の次子）を家督に迎えていたが、天正10年（1582）の中富川の合戦において、三好勢は長宗我部勢に大敗した。続いて元親は、勝瑞城に立て籠った存保を攻めようとしたが、折からの大洪水で打撃を受けた存保は讃岐へ退いた。勝瑞を抑えた元親は程なく阿波全土の平定を終える。

従来、細川氏の守護所であり、三好氏の居館でもあったと考えられてきた勝瑞城は、藍住町教育委員会が行った調査の結果、この頃つくられ、短期間で廃絶したものであることが判明した。長宗我部元親の侵攻に際し、最後の砦として築かれたものと考えられる。東西約80m、南北約60mと小規模ながら、基底部幅約12m、高さ約2.5mの土塁と、上幅約13mの濠があり、防御施設としてすぐれていた。濠からは大量の瓦が出土しており、土塁上には瓦葺きの建物があったと考えられる。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝め

も＝＝＝＝＝＝＝＝＝

展示資料目録

勝瑞前夜

内乱と細川氏の入国

太平記	徳島県立博物館	
細川頼之像（複製）	徳島県立博物館（原品 京都市西山地蔵院）	
細川柱巖源公図	徳島県立博物館	
軍旗	内田英明（徳島県立博物館保管）	徳島県指定文化財
菅生家文書	内田英明（徳島県立博物館保管）	徳島県指定文化財
徳善家文書写（蜂須賀家文書）	徳島県立文書館	

守護所 秋月

阿波安国寺跡出土品	土成町教育委員会	
丹波焼蔵骨器	土成町教育委員会	

躍動する民衆世界 支配の基底

中島田遺跡出土品	徳島県立埋蔵文化財総合センター	
兵庫北関入船納帳（複製）	徳島県立博物館（原品 京都市歴史資料館）	

勝瑞時代

細川氏から三好氏へ

細川成之像模本	徳島県立博物館（呉郷文庫旧蔵）（原品 丈六寺〔重要文化財〕）	
守護町勝瑞遺跡（町道）出土品	藍住町教育委員会	
飯尾常連奉書	緒方俊仁（徳島県立博物館保管）	
伝三好長輝木像	三好豊（徳島県立博物館保管）	
三好長基像（複製）	徳島県立博物館（原品 見性寺〔徳島県指定文化財〕）	
大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶	徳島県立博物館	
茶人大系譜	瀬尾光江（徳島県立博物館保管）	
三好記	徳島県立博物館	

（コラム 丈六寺）

丈六寺境内遺跡出土板碑	徳島県立埋蔵文化財総合センター	
-------------	-----------------	--

勝瑞の風景

勝瑞館跡出土品	藍住町教育委員会	
勝瑞館跡の東側からの出土品	藍住町教育委員会	
正貴寺跡出土品	藍住町教育委員会	
細川真之感状	高知県立歴史民俗資料館（浜家旧蔵）	

（コラム 阿波公方）

阿州足利家呪符	徳島県立博物館	
阿州足利家呪符	富樫栄一（徳島県立博物館保管）	

勝瑞落日

勝瑞城の真実

勝瑞城跡出土品	藍住町教育委員会	
---------	----------	--

土佐衆侵攻

土佐軍記	徳島県立博物館	
香宗我部親泰起請文（浜家旧蔵文書）	高知県立歴史民俗資料館（浜家旧蔵）	
長宗我部元親起請文（浜家旧蔵文書）	高知県立歴史民俗資料館（浜家旧蔵）	
一宮成相書状（浜家旧蔵文書）	高知県立歴史民俗資料館（浜家旧蔵）	
一宮成相書状（浜家旧蔵文書）	高知県立歴史民俗資料館（浜家旧蔵）	
刀 銘 泰長	徳島県立博物館	
刀 銘（表）泰光（裏）天文元年 月日	徳島県立博物館	
刀 銘 阿州住氏吉（太刀銘）	徳島県立博物館	
森甚五兵衛成立系図	廣田正則（徳島県立博物館保管）	

展示資料点数 約350点

勝瑞城館跡国史跡指定記念特別陳列
勝瑞時代 - 細川・三好氏と阿波 -

発行 2001年10月20日

文責 長谷川賢二（徳島県立博物館）